

基幹施設・連携施設

基幹施設

岩手医科大学附属内丸メディカルセンター（内丸 MC）



内丸 MC では 2 週間に 1 日 外来の研修+振り返り
1day バック+レジデントデイ（内丸 MC でのブロック研修はプログラム中は行わない）

連携施設 プライマリ・ケア連合学会 新家庭医療専門研修プログラム…○の施設で並行研修可能

総合診療 I

- 一関市国保藤沢病院、○町立西和賀さわうち病院、
- 国保葛巻病院、○洋野町国保種市病院、○奥州市国保まごころ病院、
- 済生会岩泉病院、八幡平市立病院
- 盛岡医療生協さわやかクリニック、○エールクリニック八幡平
- 釜石病院、○東和病院、遠野病院、大東病院、山田病院、軽米病院、高田病院
- 千厩病院、一戸病院、江刺病院

総合診療 II

- 中央、○中部病院、胆沢病院、磐井病院、○川久保病院

内科

総合診療 II の施設 + 久慈病院、二戸病院、宮古病院、大船渡病院、盛岡赤十字病院、盛岡市立病院、北上済生会病院

小児科

内科と同施設で、小児科常勤・入院対応がある施設

救急

岩手医科大学（岩手県高度救命救急センター）、中央病院、中部病院、久慈病院、大船渡病院、磐井病院、八戸市立市民病院

選択

もりおか往診クリニック、中部病院 緩和ケア科、一戸病院・南光病院 精神科
専攻医の希望で総合診療 II 施設内で専門各科など

※県立病院は「県立」を省略して表記

研修ローテーションの例

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	県立中央病院、県立中部病院、県立胆沢病院、県立磐井病院、川久保病院											
	領域	総合診療 II											
2年目	施設名	県立中央病院、県立中部病院、県立胆沢病院、県立磐井病院、川久保病院など											
	領域	内科											
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	県立中央病院、県立中部病院、県立胆沢病院、 県立磐井病院、医大救急						藤沢病院、さわうち病院、東和病院、 さわやかクリニックなど					
	領域	小児科			救急科			総合診療 I					
4年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	藤沢病院、さわうち病院、まごころ病院、 さわやかクリニックなど						県立中部病院 緩和ケア科			県外施設研修		
	領域	総合診療 I						選択研修			選択研修		

お問い合わせ

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸 19-1
岩手医科大学附属 内丸メディカルセンター
総合診療医学講座 総合診療専門研修プログラム事務局
TEL: 019-613-6111(内丸メディカルセンター代表)
Mail: soushin@iwate-med.ac.jp

いわてイーハトーヴ 臨床研修病院群で研修中の初期臨床研修医の方は、
初期研修基幹施設内の総合診療プログラムの担当者にお声がけください。

いわてイーハトーヴ 総合診療 専門研修プログラム

定員: 6名/年 期間: 3~4年

イーハトーヴを
ささえつなげる
かけはしへ

いわてイーハトーヴ 総合診療専門研修プログラムとは

岩手では施設の垣根を超えて、全人的医療を提供し、

地域を守るための「良医」を育てるためのネットワークが醸成されています。

このネットワークの強みを、総合診療医の専門研修でも十分に発揮し、

岩手医科大学 総合診療医学講座が教育面やキャリア形成でサポート・ハブ・

調整機能を担い、地域医療・総合診療に関わる岩手の主要な医療機関の総力を

結集し、専攻医の成長を支えることができるプログラムを「オール岩手」でつくり、

2022年度から開始しました。



全人的医療を行い地域全体の健康を守る「良医」を育成し、岩手ひいては日本の地域社会に貢献する



誇りを持って実践する総合診療医を、継続的に育成する

- 患者さんを、背景を持った1人の人間として総合的にみる
- 地域をまるごとみる
- 地域の中で、患者さん・医療者・行政や福祉など他の業種・地域社会を支えてつなぐ「かけはし」となる



「専攻医ファースト」で自由度高く「オール岩手」で研修をサポート

プログラムの特徴

岩手県の地域医療に関わる広いネットワークで、総合診療を専門的に学ぶことができます。

多様な研修環境を用意しています。

- 研修期間は「3年」か「4年」で選択いただけます。
- 国内の短期研修が3～6ヶ月可能です（ただし4年研修の場合）
- 修了後のキャリア選択は自由で、教育や研究に力を入れたい場合も全面的にサポートします。

サポートも充実しています。

- 1ヶ月に2日間 研修日を確保し、「プロテクトタイム」で振り返りをサポートします。
- 岩手医科大学図書館が利用いただけます（リモート含む）。

プログラム研修を希望するあなたへ

オール岩手で協働し、リノベーションでつくるプログラム

岩手医科大学附属病院 総合診療科助教 プログラム副統括責任者 山田 哲也先生

岩手県は面積が広く人口が分散しているため、それぞれの地域を医療者と住民や行政が協働して守る地域包括ケアをいち早く実践してきた歴史があります。これまで地域医療を守ってこられた先達が作られた土台をもとに、これからの世代も協働してイノベーションというよりもリノベーションして、地域医療 / 総合診療のモデルを岩手から発信したいという夢をもってこの総合診療専門研修プログラムをつくりました。Webカンファレンスで熱心にコメントして下さる指導医や、病気の診断治療だけでなく心理的・社会的にも患者さんをまるごとみて支えようと奮闘する専攻医の姿を見て、本当にうれしく思っています。患者さんと同じ一人の人間として大切にできる「良医」を、オール岩手で協働して育むことができるよう努めていきたいと思えます。岩手は人がとても優しく、出会う患者さん、文化や風土から総合診療の本質を体験できる土地だと思います。ぜひ当プログラムでの研修を検討してください。



専攻医と指導医のインタビュー

患者さんと共に人生を送っていることを実感

自分の価値に向き合う醍醐味があります（今川先生）

以前、病気に関するガイドライン通りに治療方法を考えても上手くいかないことがあり、この経験が、現在の総合診療専門研修プログラムに入るきっかけになりました。患者さんの背景を汲み取った上で対話を重ね、どんな方法が患者さんの幸せにつながるのかを考えられたのが総合診療科でした。この川久保病院は医療生協の病院なので、班会というものがあります。その活動に参加する機会がありますが、私は自分の聴覚障害をテーマにしたお話などもさせてもらっています。そこでの交流は、皆さんの人生に自分がいて、一緒に人生を送っていることが実感でき、とても楽しく充実感を感じます。

私がそうだったように、これまでの知識や経験が活かされない場面に直面したとき、自分の本当の価値が見えてくると思うんです。その価値に向き合うことができるかが、総合診療科の醍醐味でもあると思っています。遠回りしてもいいので、最初に興味がある専門の科に行き、そこで壁にぶつかったとき、「総合診療科に行ってみようかな」と思い出していただければ嬉しいです。

医師の人生において大切な研修です（田村先生）

医師の人生の中で、急性期の患者さんだけを診るといふ生き方を選択する先生もいますが、地域の病院に勤務したり、開業されたりする医師が多いのも事実です。ですから、地域に根ざした医療を経験できる総合診療

患者さんを全人的に捉える総合診療は医療の原点

岩手医科大学附属病院 総合診療医学講座 教授 プログラム統括責任者 下沖 収先生

2018年4月に開始された新専門医制度により、専門医の基本領域に「総合診療科」が追加されました。当初、岩手県内には7つの総合診療専門プログラムがありましたが、研修に必須の事項をクリアするのが大変で、指導医の負担が大きいなどの課題がありました。そこで2022年度から、指導体制を結集するとともに、入り口は一つで分かりやすく、ローテーションの自由度は高くして一人ひとりの希望が叶う形を目指して、「いわてイーハトーヴ総合診療専門研修プログラム」として統一化、オール岩手の体制としました。このプログラムの特徴は、専攻医それぞれの「振り返り」を丁寧に行っていることです。振り返りにより、症例をより深く掘り下げ、新たな気づきを得ることができます。さらには自分自身の成長を実感できることでモチベーションを高めるにも役立っています。総合診療は、患者さんを全人的な存在として捉え、疾病としてのみならず心理・社会的側面からのアプローチを行います。まさに医療の原点ではないかと思っております。超高齢社会において、地域偏在や診療科偏在が問題となる中で、間違いなく総合診療医に対する期待は高まります。ぜひ、このプログラムで総合診療医を目指しませんか。



盛岡医療生活協同組合 川久保病院 今川 竜二先生（専攻医3年目）指導医 院長 田村 茂先生

の研修を受けることは、医師の人生において非常に大切なことではないかと思えます。今川先生もそのお一人ですが、患者さんの臓器を診るといよりは、お話を聞きながらその人全体を見る。そんな総合診療科が、今川先生に合っていると思います。先生は耳が聞こえないというハンディを感じさせないほど、生き活きと患者さんと交流し、患者さんからも慕われています。私たちにとっても、お互いに刺激し合える非常に良い先生です。



左：田村先生 右：今川先生

「専攻医ファースト」を実感するプログラムです

安心感をベースに診療に集中（千田先生）

患者さんが抱える悩みは、医学的なことだけではなく、社会的、心理的問題など多岐にわたっています。私は、患者さんの困っていることを丁寧に聞くことのできる医師になりたいと思っており、複雑な悩みを包括して診る総合診療科を選択しました。実際の診察では想像していた以上に幅広い疾患に携わり、さまざまな困っていることを伺うことで、たくさんの方を勉強できています。一方で、どのタイミングで専門医の先生にパトタッチすればいいのか、悩む場面も多くなってきました。その都度、指導医の坂本先生に相談しながら判断するようにしていますので、安心して診療に集中できています。私は生まれも育ちも岩手県なのですが、

住み慣れた環境の中で、ストレスなく研修ができることに感謝しています。また、この研修プログラムは、専攻医ファーストで構築されていることも実感しています。できるだけ私たちの希望に添ったローテーションを考えて調整して頂いており、非常に恵まれていると思っています。始まったばかりの研修プログラムですが、私としてはお勧めしたい内容です。

優れた総合診療医を岩手県全体で育成（坂本先生）

初期研修の頃から、千田先生が仕事に一生懸命に取り組む姿勢を見てきました。現在は専攻医として、患者さんの身体や病気の問題だけにとどまらず、心で悩んでいることや、社会的な背景が絡み合う複雑な症例

を担当してもらっています。意欲的に取り組む姿に、「患者さん第一の医療」が提供できているのではないかと感じます。これからも自分の描く将来像に向かって、今の努力を継続してほしいです。今後、岩手県内外において、総合診療医のニーズはさらに増大することになると考えられます。このプログラムには、都市部でも地域においても輝く、優れた総合診療医を岩手県全体のネットワークをもって育成してくれることを願っていますし、私も全力で関わってまいります。



左：坂本先生 右：千田先生